

[06_01]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1468012>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 6 (1), 1973-02-20. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

機器構成変更について

当センターでは、従来、主として入出力機器の変更による機器構成の配当予算内での改善と、ソフトウェアの改善およびメーカーでのソフトウェアのレベルアップなどによるシステムの能力の向上により、年々急増する計算需要を、利用者へのサービスをそれほど低下することなく、システムの運用に努めてきた。しかし単なるカード入力、LP 出力のバッチ処理の運用に限っても、本年度のジョブの混雑期を24時間フル稼働で乗り切るのが限度で、現状のままでは来年度末には、特にターンアラウンドタイムの点で利用者へのサービスが低下せざるを得ないと予想される。

専用ファイルの利用、TSS サービスの利用は、この事態をある程度緩和させるのではあるが、専用ファイルについては、専用ファイル用の共用ボリュームの絶対量の不足、また、TSS については、TSS サービスの可能なシステムは、バッチジョブのみのシステムに比較し主記憶の不足により、TSS サービス時間の増加を行なうと、バッチジョブ処理のターンアラウンドタイムが増加するという欠点を持っている。

しかし、TSS サービスは将来の計算機利用形態の主流をなすと予想されることを考えると、TSS の可能なシステムの運用時間が、全体の運用時間の一部分にすぎない状態は満足すべきではないと考える。

もちろん以上述べたことの本質的な改善は、全体的なシステムの構成替えによる以外不可能であるので、センターでは新システム導入を計画し予算の要求を行なっている。しかし、この実現も一兩年中には困難であると予想される。とはいえすぐ先のことが見えている現状からこのまゝ手をこまねいているわけにはいかない。従って次表のように現システムの一部変更による急場の乗り切りをはからざるを得ないわけである。

今回の機器変更のねらいは

1. 専用ファイル用共用ボリュームの増加（従来の2倍程度利用者に解放できる）
2. 大容量記憶装置と高速ファイル装置の設置により処理能力の大幅な向上

にある。これにより、見かけ上主記憶が増加すると同じ効果をもたらし、TSS サービス時間の増加も期待できる。

納入機器				返納機器			
品名	略称	機器番号	数量	品名	略称	機器番号	数量
大容量記憶装置	LCM	F2621A	1	セレクトチャンネル装置	SCH	F2621A	1
高速転送装置	HTU		1	ファイル制御装置	FCU	F1718A	1
高速セレクトチャンネル装置	HSC		1	磁気ドラム装置	DRU	F624K	4
高速磁気ドラム装置	DRU	F6621A	2	入出力結合装置	IOC	F1620B	1
高速ドラム制御装置	DRC	F1740A	1				
集合磁気ディスク装置	DPU	F472K-2	1				
回線試験装置		F2671C	1				
計算機結合装置	CLU		1				

表1. 機器構成変更内訳（昭和48年3月）

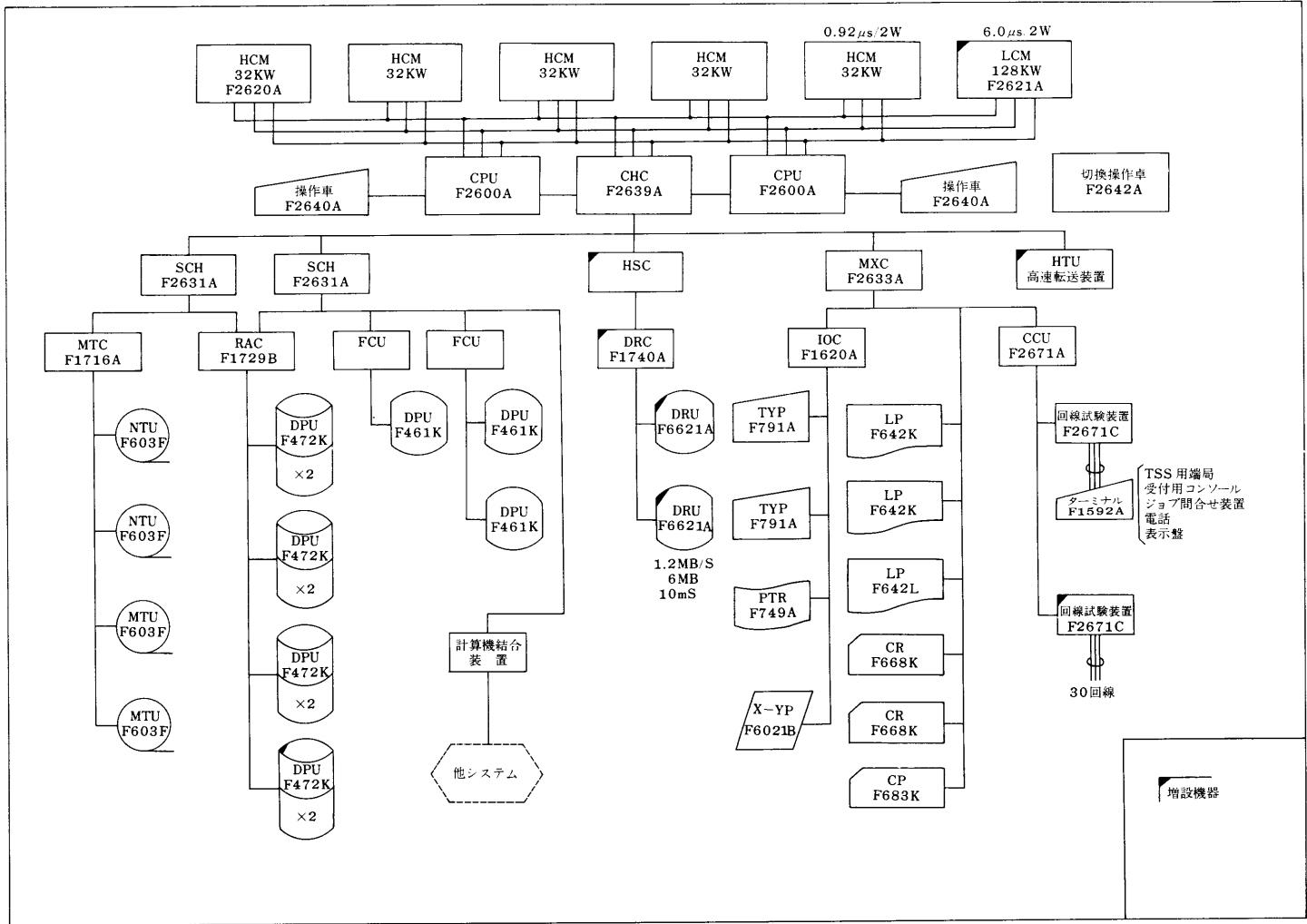


図1. F230-60 システム構成図 (新)